

柏樹

川口市退職校長会
会報「柏樹」
第31号
令和7年7月1日

会長就任にあたって

小林 博武



この度、令和7年度総会において、南勇会長ご勇退後、会長の大役を拝命

いたしました。諸先輩をはじめ会員の皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。会員の戮力協心、全員の力で発展させてきた本会は、現在238名の会員を有する県下最大の会であります。これまでの成果を維持・発展できるように努めてまいりたいと存じます。

本会の目的は、会員同士が行事・クラブ活動を通して親睦を深めると共に、会員一人ひとりが生活への意欲とメリハリをもつこと、そして、その意欲をもとに、子供たち・学校・地域等への支援をできるだけ行っていくことです。さて、コロナ禍により本会の活動が中止や変更を余儀なくされ、活動の停滞・入会者の減少等の問題が顕在化し、今一度の活性化が必要となっています。

そこで本会では現在、魅力ある退職校長会を目指しています。昨年度実施した

アンケートの結果、行事・クラブの参加者は70代・80代は多く60代は少ない、HPの閲覧者数は40%等、会員の活動への関わりが明らかになりました。

今後、より一層行事・クラブ等気軽に楽しく参加しやすい雰囲気醸成、HP・広報「柏樹」を充実し活動の見える化を図る、現職校長との交流（研究協議会への積極的な参加・現場の学校の支援等）の活発化等、本会の事業活動を充実させていきたいと存じます。

現在、先行き不透明な時代をたくましく心豊かに生きていける子供たちを育てていくことが求められております。今年は終戦80年の節目、本市は戦後荒廃の中で新教育プランが模索される中、川口プランを発表し全国をリードしてきた自負があります。

未来を担う子供たちが、情熱と使命感をもった教師のもとで学び、家庭・地域社会の温かな支えのもとたくましく、心豊かに生きて、自らの夢を叶え志を果たしていけるよう、本会も側面から支援していく所存です。

会員皆様のご支援・ご協力のほどを切にお願い申し上げます。

おさそい

龍口 喜子



退職して2年

程経ちました頃栗原喜一郎先生から電話があり、「幹事として川口市退職校長会のお手伝いをしてくれませんか。」とのことでした。岸川中学校在職の折、子供の体が弱く、ご迷惑をかけておりましたので、承諾せざるを得ませんでした。

はじめは、通知文の発送などでしたが、3年程経ち、幹事長という立場になりました。南会長の指示のもと退職校長会の様々な資料を作成するようになりました。資料作りの際、ワードを用いたことのない私でしたが、南会長に指示を仰ぎながら、なんとか資料の作成ができるようになりました。その資料作りを通して、退職校長会の1年間の取組や役目、意義等がわかってきました。携わってみて気付いたことがあります。立場・立場で退職校長会のとらえ方は異なると思いますが、私にとつては、退職校長会はよりどころの一つであると思えてきました。それは、一個人として何でも話せる仲間がいる心強い存在であると思えてきました。

た。

現在、川口市退職校長会は、いろいろな行事への参加者を増やしていこうと会長はじめ事務局の方々が思案しています。

私もいくつかの専門部に入っています。たとえば、英会話クラブでは、月1回開催しています。外国の企業に勤めていた講師の方の指導を仰いでいます。私はあきれる程英語で話すことができます、日本語を交えながら所々英語で話す程度ですが、温かく楽しい雰囲気です。英会話クラブは行われています。私が面の皮が厚いからということではなく、講師の方も細かいことは言わずに、その人のレベルに合わせてアドバイスをしてくださり、なごやかな雰囲気で行われています。

また、年2回程、世界の料理を味わう会を開いています。中には多様な方もいて、食事の会だけの参加でも、共に笑顔で語らい楽しい会でもあります。私のような年になりますと、友だちも親しい人も少なくなり、近頃気さくに話せる仲間が欲しくなります。こんな時、退職校長会のさまざまな行事があります。それぞれの行事に参加する意味があるように思えます。

退職校長会の皆様は、どうお考えですか。退職したての方も多いいと多様な折かと存じますが、一度参加してみませんか。お待ちしております。

柏樹会総会

祝賀会・懇親会

5月3日(土)、フレンディアにおいて、57名が出席し開催されました。

総会では、南



南勇会長挨拶

勇会長の挨拶に続き、井上清之教育長、石田孝作県退職校長会顧問、三浦伸之全市校長会長の祝辞をいただきました。



井上清之教育長挨拶

議事に入り、事業報告及び計画、決算及び予算、小林博武新会長はじめ令和7年度役員が承認されました。



小林博武新会長挨拶

その後、祝賀会・懇親会、HP紹介が行われました。会場では恒例の美術展も開催され、成功裏のうちに閉会しました。

今年度は4名の新入会員を迎え、会員数は238名となりました。



勇退された南勇会長には、12年間の長きにわたるご功績とご尽力に心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

朱寿星びに瑞宝双光章
おめでとうございます

大澤武夫先生
横田保先生
鈴木東先生
瀬戸口さわ先生

ちよつといい話

ちよつとずれた話(育爺)

熊谷芳美

定年退職の1年前から始まった育爺1歳になる上の子の保育園へのお迎えから始まった。しかし、退職後は週1回が2回、2回が3回となり、今では毎日である。しかも送りも迎えもな

育爺の1日は、午前7時10分に家を出て娘宅に行き、上の子の髪結いから始まる。7時40分に通学路の集合場所まで送り、出発を見届けたら、下の子と犬を預かり我が家に戻る。

「ピタゴラススイッチ」の動画を見たり、真似をして作ったりしている下の子の脳の目覚めを待つ。8時30分に犬を連れて保育園へ出発である。

午後には上の子の下校時刻に合わせて娘宅で帰宅を待ち、宿題を持って我が家に戻る。習い事の前の隙間時間には家の前でバドミントンやサッカー、野球等の遊びをする。

習い事は、上の子が月・水・木、下の子が月・水・金にある。二人の送迎時間が、保育園の迎えと小学校の下校時刻、婆の義母の介護との時間調整で大変な時もあるが何とかこなしている。夕食後、帰宅時間に余裕がある時は

孫二人の一番のお気に入りの2階遊び(相撲や体操、動物園ごっこや盲導犬聴導犬ごっこ、秘密基地づくり等)を楽しんでいる。

午後7時30分頃に犬の散歩送りで1日が終わる。

この他に、突発的な発熱による保育園への迎えや医療機関への送迎、娘夫婦の休日勤務での泊まりを含む預かりもあった。

番外編として、小学校の生活科の朝顔や野菜栽培に合わせ、我が家でも朝顔や鉢花、プランターでの家庭菜園に挑戦し、花や野菜の成長過程と収穫の喜びを味わっている。

今はもう諦めてはいるが、もう少し何とかならないものかと娘に伝えたとこ、「かわいい孫を毎日見られ、しかもボケ防止になるのだから一石二鳥で最高でしょ。」と返された。

4月からは、下の子も小学生となり「あのね」から始まる学校生活の話を楽しみに聞いている。上の子は高学年となり、反抗期の芽が見え隠れしている。

この10年、こんな生活をしているので、「ちよつといい話」ではなく、「ちよつとずれた話」としてお許しいただきたい。



☆日々雑感☆

幸せの源

高橋 光代

「初任者よりも教材研究しました。」
「高校の下見にも行ってきました。」
「昨年度当初の私です。初任者指導を終え、今は、都立高校で日本スクールカウンセラー推進協議会のガイドンスカウンセラーとして授業をしています。」

東京都教育委員会は、平成28年2月に都立高校が生徒を「真に社会人として自立した人間」に育成することを目的として、「都立高校改革推進計画・新実施計画」を策定。その目標1として「次代を担う社会的に自立した人間の育成」を掲げ、具体化するための取組の方向「企業・NPO等との連携によるキャリア教育の推進」の一つに、「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」を位置付けました。

授業では、主に、構成的グループエンカウンターを通して、自己理解・他者理解を行い、人間関係を広げ活性化させるのがねらいです。

また、教科『人間と社会』として、第1章「人間関係を築く」、第3章「働くことの意義」、第4章「役割と責任」、

第8章「チームを動かす力」、第9章「ワークライフバランス」と関連付けてキャリア教育を行っています。SDGsの4、質の高い教育をみんなに「仕事に關係する技術や能力をそなえた若者やおとなをたくさん増やす」という目標に関連付けることもできます。

児童との出会いがほとんどだった私にとって、生徒との出会いには戸惑いがありました。が、「目の前の人を大切にする」という一心で、ともに学ぶことができました。

教えるということは学ぶこと。学ぶということのたった一つの証は変わる

体の成長と違って心の成長には限りがありません。同じ事柄でも価値観によって受け取り方は変わります。物事に良いも悪いありません。考え方によって、良くも悪くもなります。また、環境によって見方考え方が変わります。「その状況の受け止め方」「これから先の自分の行動」を変えていけるよう努めていきます。

昨年度、念願だった富士山登頂を果たし、今までできなかった平日の有効活用を行いテニスや旅行ができることが、私の幸せの源です。そして、健康第一で授業ができることにつながっています。

併せて、皆様方の健康とハッピーを心より願っています。

◆行事・クラブ活動◆

◆美術展

第16回美術展も、会員の皆様のご尽力により素晴らしいものとなりました。作品数は39点、出品者は延べ14名・2団体、いずれも力作ぞろいで見応えのある作品ばかりでした。また、展示作業で下支えし飾り上げた皆さん、お見事でした。



伝統の美術展が更に発展しますよう願っております。
(小川 吉之丞)

◆親睦旅行

9月24日(火)、好天に恵まれ、参加者19名で実施することができました。

川口リリア前を中型セミサロンスで出発し、筑波宇宙センターを見学、筑波山江戸屋で昼食、アサヒビール茨城工場の見学というコースでした。

宇宙センターでは飲酒している人は入館できないという大きな関門がありました。が無事に全員で見学することができました。

「私的には難しい所に行くことができた。」
「4年ぶりに実施できて嬉しい。」

「工場は休館中に大きくリニューアルした。」

等の声を聞くことができました。コロナ明けで久々に実施できました。今年も多くの皆さんの参加をお待ちしています。

(原田 明)



文学散歩

10月25日(金)、17名の参加者が午前10時に東京メトロ東西線早稲田駅1番出口に集合しました。

最初の見学場所は、漱石山房通りにある新宿区立早稲田小学校です。関東大震災後に再建された小学校で、文化的歴史遺産としても価値のある建物に接することができました。

続いて、漱石終焉の地である漱石山房記念館を見学しました。この時期は三四郎特別展が開催されており、小説の背景が分かりやすく展示されていました。漱石の書斎や当時の建物も再現され、価値ある見学になりました。次に、早稲田駅前の「漱石誕生の地」の記念碑を見学しました。

この後、早稲田大学の構内にある會津八一記念博物館、通称村上春樹ライブラリーの国際文学館、坪内博士記念演劇博物館(エンパク)を急ぎ足で見学しました。



当日は秋日和の穏やかな天候に恵まれ、文豪漱石の新しい面を知るなど、有意義な半日を過ごすことができました。

(佐藤修)

俳句の集い

コロナ禍の影響もあり、ここ数年の間は「紙上俳句」という形をとり、皆さんの投票で優秀句を選び、全ての句に関根要造先生より指導をいただくという形をとっていました。

しかしコロナの規制も緩和され、昨年度から念願の句会「四季を詠む」が復活し、ついに、年間3回の活動が始まりました。活動日は6月6日(木)、10月3日(木)、2月6日(木)の3日間でした。活動場所は、毎回、川口市立教育研究所で行いました。

毎回、「俳句の集い」会員の皆様に俳句の募集をかけ、集まった句を句会の参加者で詠み合い、吟味し、優秀句を選出しました。そして、その会で出された指導・助言をまとめ、投句された皆様に返送し、今後の句づくりの参考にしていただきました。

久しぶりの会であったこともあり、句会の参加者は少なく、毎回参加していただけたのは、横田保先生、倉林隆先生、関根要造先生、佐藤修先生と私の5人でした。

今年度は、昨年度の反省を生かし、句会参加者が増えるよう工夫をしながら運営していきたいと思えます。また、投句される人数も増えるよう願っています。皆様には、「俳句の集い」にぜひご参加ください。

(大山孝二)

健康教室

6月28日(金)、栄養面の取組として簡単ヘルシー料理を行いました。

講師は櫻井道子氏にお願いし、参加者8名で有意義に進めました。

調理メニューは、豆腐のフライ、バナナブラウニー、白いスープ、サバと大葉の混ぜご飯でした。

会食しながら櫻井先生のお話を聞き、参加者からは「美味しい」「自宅でも作ってみたいです」「来年もお願いします」等の声を聞くことができました。

10月2日(水)運動面の取組として見沼田んぼウォーキングを行いました。参加者数14名、最高齢88歳でした。東川口駅をスタートし、東沼神社↓見沼代用水東縁↓川口自然公園↓芝川第1調整池↓見沼通船堀↓見沼通船堀公園(東浦和駅)と歩きました。

晴天に恵まれ、約7kmを全員完歩でき、昼食会で乾杯しました。

「見沼を再発見できた」「来年も参加したい」等の声を聞くことができました。

(原田明)



盆栽教室

令和6年度は、例年二つの事業を三つに増やして行いました。

一つ目は6月の「飯村様(喜楽園)指導のグリーンセンターでのワークショップ」、黒松の整姿と植え替えでした。針金を用いた大胆な「曲り付け」と「芽切り」に緊張しました。

二つ目は12月の「桐山様指導の正月用松竹梅の寄せ植え」、梅を中心に黒松や笹、南天を配し、苔や白砂・青砂でカバーし、最後に番い鶴を飾り付けました。10名の参加で、楽しく活動できました。

三つ目は3月の「飯村様(喜楽園)指導の山槭の五幹・寄せ植え」、山槭は根や枝が用意されており、赤玉土やけと土を使う等しながら、五幹の配置をそれぞれで工夫しました。

令和7年度は、10月に「木瓜」、3月に「松柏類」の植え替えを計画しています。初心者でも十分に楽しめますので、参加をお待ちしています。

(磯奈保子)



♠ ゴルフクラブ

昨年度、柏樹会として4月、6月、10月、12月、南部支部（通称SOP）の10月、そして県退職校長会のゴルフの10月と計6回を無事終えることができました。

柏樹会のコンペでは9名から15名の参加者があり、それぞれがナイスショットを披露して和気あいあい、緑の中で汗を流し、楽しいひとときを過ごすことができました。

参加された先生方は満足しておられますが、これらのゴルフコンペに参加する先生方が年々少なくなっていることに危惧しているところです。

現状では90才の原田豊次郎先生他年配の先生方の参加をいただきながら活動しております。ところが近年は、特にコロナの時期を挟んで参加者が減少し、かつての盛況がなくなりつつあります。私は倉林先生から担当を受け継ぎましたが、伝統のクラブを衰退させる訳にはいきません。

退職して間もない先生方には特に、退職後の人生を大いに楽しんでもらうためにも参加してもらいたいものです。今後の存続を心配されている先生方も多くおられると思いますが、先生方のご協力を得ながら活動していきまします。ぜひともよろしく願っています。

（佐藤 誠造）

♠ 写真クラブ

令和6年度2回目の撮影会は、2月18日浅草の羽子板市で行いました。参加者は6名でした。集合場所は朝10時30分、浅草の雷門です。従来この行事は川口または赤羽駅に集合して出発していましたが、会員

が高崎線、東武東上線、京浜東北線等の利用が多く、集合場所を限定することが難しくなり、現地集合ということにしました。早朝にも拘わらず雷門付近には大勢の人が集まっており、中でも外国人の多さにはびっくりしてしまいます。



今回の会員への連絡はラインの活用も取り入れ、より短時間で撮影会の連絡ができたこと、そして、短時間で参加の集約ができたことにびっくりしました。連絡や返答が短時間でできたことは今後の計画の立て方等に変参考になりました。

りそうです。当日は天気が良く、羽子板市も2日目を迎え大変混み合っていました。撮影会終了後



はいつものように食事をとり情報交換等を行いました。今日のテーマは「ライン」についてでした。（宇多川 正博）

♠ 絵画クラブ

令和6年度の絵画クラブは、10月の教育研究所芝園分室での静物画で始まりました。その後、国立新美術館で土日会展鑑賞、1月の静物画、3月の写真会と4回実施しました。

3月14日写真会の日には、7人が東浦和駅に集まりました。行き先が決まっていなかったため、武蔵野線から見えた花の咲く公園に向かいました。5分程歩いた所に池のある小さな公園があり沢山の人が花見を楽しんでいました。公園を取り囲むように咲く花は、梅か桃と思っていました。近くの人から河津桜と聞きました。平日なので、公園にいる人は保育園の子供やシニアホームの方のようでした。風が全くない暖かい日で、子供たちが満開の桜の花の下を走り回る、まるで一枚の絵のように、心が安らぐ光景でした。

絵画クラブは活動を始めてから10年以上がたちます。濱口先生の指導で静物画を描き、近場に出かけ写生をしてきました。また、会の後に食事をし、河口湖へのスケッチ旅行にも出かけました。この10年で他界された方もいて会員が少なくなり、少し元気がなくなっています。自分の絵を描くこと、人の絵を見ること、また集うことも楽しいことです。絵が好きな方の入会をお待ちしております。（米澤 実）

♠ 英会話クラブ

私たちのクラブは、「気楽に英会話を楽しむ」ことを目指しています。

月に1回2時間、中学校の教科書を使い講師の指導を受け活動しています。教科書のQRコードをスマホで読み取り、繰り返しリスニングをして一行ずつ訳していきます。

講師は「多くの日本人は、英語で質問されると、なかなか答えることができません。空いてしまふ。それは上手に答えようとすると、質問されたらすぐ間違えても良いから、文章で答えることができるようにしまふ。」と、最後の30分間は質問と応答の練習をしています。講師の質問に各自が考えた返答や翻訳アプリを使った返答の面白さに、笑いが絶えません。

年に1〜2回は、世界の国々の代表的な料理を味わいながら、その国の食文化を学んでいます。過去にはギリシヤ、韓国、ドイツ、フランス料理、昨年度はイタリアの代表的な料理を味わい、英語を交えながら楽しいひとときを過ごし、会員の親睦を深めることができました。

コロナ前には、浅草や小石川後樂園で折り鶴を渡しながら、外国人と話をする活動もしていました。部員の要望もあり、今年度もまたこの活動を始めようと思っています。（野本 和子）

教育情報

「考え、学び合い、創造し、学びを深める児童の育成」

「教科横断的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を高め合える授業の創造」

川口市立前川小学校

校長 鎌田 尚

1 はじめに

本校は、令和5・6年度に川口市教育委員会の「学力向上」に関する研究委嘱を受けて2年間にわたって研究に取り組んだ。その成果を令和6年11月13日に研究発表した。

2 研究主題

本校の児童は学習に対し受け身であり「自分で考えて行動する」「課題に対し、向き合って解決する」という力は十分に備わっていない現状があった。予測困難な未来に生きる児童にとってこれらの「生きる力」の育成は不可欠であり、その力の育成のためには、教科横断的な視点に立った探究的な授業実践を行うことが重要と考え、「生活科」「総合的な学習の時間」を軸に「考え、学び合い、創造し、学びを深める児童」を目指す姿として研究主題を設定した。

3 研究の実践

(1) 研究構想

① 仮説

○自分自身で問題に気付き、問題を解決したいという意欲をもたせ

ることで、必要感のある学びとなり主体的に探究的な学習のプロセスに取り組む「考える児童」が育つであろう。

○児童自身の意見を視える化しながら情報を整理し、グループで協力してよりよいものを試行錯誤しながら協働的に学ぶ場面を設定することで、思考力や判断力を働かせられる「学び合う児童」が育つであろう。

○相手意識と目的意識を明確にもたせることができれば、粘り強く課題解決に取り組む、思いや願いを具現化しようとする「創造する児童」が育つであろう。

② 主な手立て

○ゲストティーチャーによる

出前授業の活用

○多面的な切り口で物事を捉えらるるための資料の工夫



町会長さんから学ぶ

○児童の気付きから課題設定していく教師の助言・支援

○日常にある普段考えたことのな

い問題との出会わせ方の工夫

○児童の思考を視える化させるシンキングツールの活用

○児童による交流・共有・分析・集約の場の設定

○児童が思いや願いを具現化でき

るような発信の場の工夫

(2) 具体的な取組

① 前川スタイルの確立

生活科や総合的な学習の時間の目標を実現するには、身近な生活に関する見方・考え方を生かすことや探究的な学習のプロセスが重要である。教師がそのことを理解することで児童自身にも気付かせ、思考させ、判断させる「見守る時間」や「思考錯誤の時間」の確保と、その時間を充実させていく働きかけや支援を大切にしたい。教師が各教科等で学んだ内容との関連を児童に価値付けるよう声掛けすることで、より教科横断的な学びを児童に自覚させ、学習内容を組織化していくことを実感させていくようにした。

② 単元配列表の作成

生活科・総合的な学習の時間と各教科の関連を整理した全教科の単元配列表を作成し、教科横断的な学びの土台作りを行った。

③ PDCAサイクルを可視化した単元計画

児童の思考を働かせるためには、課題に対してPDCAサイクルを生かした活動を行うことが重要である。「課題の設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現→評価→新たな課題の設定」の繰り返しにより児童の思考を活性化させ、主体的な学びにつなげた。

4 成果と今後に向けて

(1) 成果

○全学年でゲストティーチャーの出前授業を計画・実施したことで、児童や教師が多面的な切り口で物事を捉えることができた。

○児童に課題解決の意欲と見通しをもたせられたことにより、自主的に取り組む姿勢が見られ、必要感のある学びとすることができた。

○目的意識や相手意識が明確になり、粘り強く課題解決に取り組むことができた。

(2) 今後に向けて

○児童が考えを分析・整理する際、適切なシンキングツールを選択して活用する力の育成を図る。

○児童の思いや願いを具現化できる授業力の更なる向上を図る。

編集後記

会報「柏樹」第31号をお届けします。玉稿を賜りました皆様、心より感謝申し上げます。

総会時に配付した昨年度のアンケート結果を受け、今年度は、懇親会の開催や広報の充実、連絡網の改善等に取り組んでいきます。皆様には各種行事・活動へのご理解とより積極的なご参加をお願いいたします。(滝澤 榮則)



川口市退職校長会ホームページ

<https://kawaguti-taishoku-koutyou.com>

QRコード等からご覧ください